

評価結果一覧

所管課	事務事業の名称	事業の概要	平成25年度決算額(千円)	成 果				外部評価委員会				
				成果指標(単位)	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度目標	妥当性	有効性	効率性	今後の方向性	意見
					(A~D)	(A~D)	(A~E)					
教育総務課	小中一貫教育推進事業	平成26年度から、玉名市の小中一貫教育が始まります。6中学校区において、共通の「目指す児童生徒像」を定め、その具現化のための「共通実践事項」を知・徳・体をそれぞれに決め、達成目標も定めて、中学校区単位で同じ方向に向かって学習指導や生徒指導を行う予定です。また、特色ある教育課程として「玉名学」と「エンジョイ・イングリッシュ」を平成26年度からの試行を経て導入します。	12,462	中学生になるのが楽しみと感じる小学生(%)	92	90	93	A	A	A	現状のまま継続	平成26年度から義務教育9年間を見通した小中一貫教育がスタートした。中学校区でひとつになって取り組んでいき、今後、小・中の教職員が相互に連携・協力しながら一貫性のある学習指導等を行っていく。また、試行を経て本市独自の「玉名学」と「エンジョイ・イングリッシュ」を順次導入することとし、教育の効果をより高めるために、学校再編時には小中学校が一体となった施設一体校になることが望まれる。骨太の子供を育てるために、計画に沿った推進が望まれる。
	小学校特色ある学校づくり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育を必要とする学校に支援員を配置し、特別支援教育を行う。 ・全国的な児童の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。 ・児童の学力向上及び健全な心身の育成を図るため、補助金を交付し教育振興を図る。 ・芸術鑑賞会を実施し、豊かな創造性を学ぶ。 ・研究指定校を指定し、学力向上につなげる。 	41,496	全国学力・学習状況調査平均正答率:国語(%)	82.5	66.3	100					
	小学校就学援助事業	就学に必要な学用品、新入学用品等は定額で援助し、修学旅行費、給食費、医療費等は実費額で援助する。	28,929	要保護・準要保護就学援助児童数(人)	415	424	409	/	A	A	現状のまま継続	医療券発行事務は、平成26年度から同様の医療費助成制度が中学3年生までに拡大されたことにあわせて廃止された。経済的理由で就学困難な児童の保護者の援助が図られていることから、現状のまま継続する必要がある。
			特別支援学級就学奨励児童数(人)	29	36	41						

生涯学習課	放課後等の支援活動事業	おおむね小学校低学年の児童が、学校の余裕教室等を利用しながら、放課後の時間を活用した様々な体験や地域の方々との交流活動を通じて豊かな人間性を育む場を提供しながら、地域と子どもの交流や学びふれあいの活動を行うことにより地域教育力の向上を図る。	852	放課後子ども教室賛同率(%)	92	95	100	A	B	A	執行方法の改善	児童クラブを利用してしない小学校低学年の放課後児童の安全な健全育成の場であり、実際に保護者の賛同割合も年々増加している。また子育て世代を中心に高い関心が寄せられている分野の事業であり、一定のニーズも認められることから、重要な子育て支援関連施策として捉え、学校長をはじめ学校側、PTAや地元地域住民への積極的な事業周知と内容説明を行い、実施校数の拡充が望まれる。
				放課後子ども教室参加児童数(人)	37	58	100					
	図書館運営事業	多様化、高度化する市民の学習ニーズに対応できるよう計画的に蔵書の充実・図書備品の購入・寄付金を活用した児童書等の充実を図りながら、より多くの方に利用してもらう図書館づくりを図る。	51,274	市民一人あたりの図書貸出冊数(冊)	5.2	5.2	6.0	A	C	A	執行方法の改善	昨年までと同様に、図書カード登録者数や図書購入冊数は年々増加しているが、市民一人当たり図書貸出冊数はこれに比例していないことが見受けられる。今後も、読者ニーズに合った図書選定、実際の開架方法の工夫や企画イベントの開催等について、市図書館協議会や窓口業務委託業者等と協議し、魅力ある図書館づくりに努めること。
	体育団体運営支援事業	市体育協会や市スポーツ推進委員協議会等の運営や活動に対して、補助金等を交付し、競技スポーツの競技力向上や選手・指導者の育成、地域スポーツ活動の普及促進を図る。	11,965	県民体育祭総合順位(位)	8	4	4	A	B	A	現状のまま継続	体育協会やスポーツ推進協議会への支援は、市民の健康増進及び体力向上はもとより、生涯スポーツの普及推進及び地域間融和を図るうえで重要な役割と責任を持つ団体であることから、今後も現状のまま継続することを求める。また、現在検討中である地域総合型スポーツクラブ導入等の地域実情に応じたスポーツ振興策についても、関係団体等との十分な検討を図り進めること。
				県民体育祭出場者数(人)	391	359	350					

コミュニティ 推進課	生涯学習推進事業	子どもから高齢者まで生涯にわたって学習できるように、多様な学習機会及び集会の場として、各種公民館講座や高齢者教室を開催する。また、毎年2月に公民館講座の成果を発表する場として、生涯学習フェスティバルを開催する。	2,428	公民館講座受講者数(人)	3,124	2,353	3,000	A	C	A	執行方法の改善	市民の受講ニーズを的確に把握することは、難しいと思われるが、今後も特色のある講座を開講していただきたい。また、応募者の多い講座については、出来る限り、講座回数を増やすなどして、受講生が参加しやすい環境の整備に努め、市民の学習意欲に応じて頂きたい。
				高齢者教室受講者数(人)	390	441	450					
	自治公民館施設整備事業	自治公民館を整備しようとする地区に対して補助金を交付する。 ◆補助金上限額 ・新築 300万円 補助金額は事業費の3分の1。 ・増改築 100万円 補助金額は事業費が30万円を超えた場合、事業費の3分の1(1万円未満切り捨て)。 ・修繕 30万円 補助金額は事業費が30万円を超えた場合、事業費の3分の1(1万円未満切り捨て)。 平成25年度は、新築1件に対し43万円。増改築3件に対し248万円。修繕7件に対し161万円を助成した。	4,520	自治公民館整備率(%)	23.6	27.9	30	A	A	A	現状のまま継続	自治公民館は、地域の核であるとともに地域コミュニティの場でもある。施設の老朽化が進み、整備が必要な行政区が今後増していくと思われる。予算面での制約もあるが、公民館施設整備の要望がある場合は、遅滞なく対処していただき、今後も継続することが必要である。
	玉名市横島町いちごマラソン大会事業	マラソンを通しての健康促進、特産物を生かした地域とのふれあいを目的とし、補助金交付と参加料収入で実行委員会により毎年開催する。 大会内容 5コース・13種目	5,288	大会参加者数(人)	7,047	6,514	5,000	A	B	B	執行方法の改善	横島町の特産品である“いちご”のPRと本市における地域に根付いた代表的なスポーツイベントであることから、引き続き事業を推進することが必要である。また、大会運営費の増収を図るため、大会のスポンサー募集についても積極的に取り組んでいくことが望まれる。
				市外参加者数(人)	6,217	5,755	4,000					

文化課	市内遺跡試掘確認調査事業	埋蔵文化財保護の観点から、道路や施設建設等の公共工事、住宅や店舗建設等の民間開発に伴って試掘・確認調査を行い埋蔵文化財の状況を把握し、文化財保護と開発行為との調整を行う。	2,040	市内遺跡試掘件数(件)	11	11	11	A	A	A	現状のまま継続	文化財保護法で貴重な国民的財産とされる埋蔵文化財の遺物や遺構等が包蔵される遺跡が、市内には約800箇所確認されており、現状のまま保存することが基本とされている。これらを適切に保護するためにも、開発行為前の試掘確認調査は非常に重要な調査であり、発掘本調査実施の判断を行うものであることから、開発事業と埋蔵文化財保護との調和を図りながら、現状のまま継続することとする。
	文化振興事業	市民文化団体である文化協会運営への支援協力を実施しながら、文化協会活動および市民文化祭の充実を図る。	8,539	文化協会所属会員数(人)	1,427.0	1,178.0	1,178	A	C	A	現状のまま継続	平成24年度に文化協会支部制の廃止により一部地区会員が退会したため会員数減少や組織力減衰もあったが、再度入会の働きかけが行なわれ徐々に増加の傾向にあり、また昨年度には業務効率化のための内部業務の改善も講じられており、文化振興関係団体への一定の支援は必要なことから、現状のまま継続する。なお今年度に策定を終える文化振興基本計画は、今後の文化振興の基本的な方針や方向性を明確に定め、総合的で計画的な文化施策の推進を図るとされているため、貴重で豊富な文化資源を有効に活用することが望まれる。
				市民文化祭観覧者数(人)	1,192.0	1,040.0	1,300					
博物館事業	企画展や催物等の様々な事業を通して、玉名の歴史や文化を紹介する。 企画展事業 催物事業と 体験学習事業 広報・集客業務	10,047	博物館来客者数(人)	10,498	12,418	13,000	A	C	A	現状のまま継続	より身近で親しみが持てる博物館づくりを目指し、様々な創意工夫がなされ入館者数も前年度から約2千人増加している。特に企画展等催事が魅力あるものとして好評を得て、充実したものであった。特に問題が無いことから現状のまま継続するが、引き続き、市の歴史文化の情報を積極的に幅広く発信していき、一人でも多くの方に訪れていただけの魅力ある博物館づくりが望まれる。	